

札幌市立平岡緑中学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本校では、総合的な学習の時間の学習活動の一環として、学校図書館を活用してきた。本年度は、更なる学校図書館の活用を推進するために、各教科や領域での学習活動で活用していくことで、学校図書館の活用機会が増え、読書活動の幅をより一層広げていけるように進めていく。また、各教科の授業の中で、学校図書館のもつ機能を十分に生かし、多様な学習を支援するという学校図書館のもつ機能を十分に生かし、「分かる・できる・楽しい」授業の実現を目指す。

2 取組内容

(1) 図書館活用授業～1年国語科の実践～

① いろんなジャンルの本を紹介しよう

この実践のねらいは、一つの作品からさまざまなジャンルへつなげる活動を通し、自分の考えを分かりやすく伝えるように表現を工夫することである。一つの作品から連想されることがらと関連した作品を選び、そのつながりを自分の言葉で説明する。この活動では、一つの作品がもつ、多様なジャンルとの関連を実感することも期待できる。様々なジャンルの本を読むには、そのジャンルに興味や関心がなければならない。よって、一つの作品には多くのジャンルと関連があることに気付くことで、幅の広い読書活動へとつながることになると考える。



② どのようなジャンルと関連するのだろうか

多くの生徒が知っている「竹取物語」を最初の作品として、そこから連想されることから、他ジャンルの本を紹介する活動を行った。生徒は、学校図書館司書に相談しながら、各自が関連付けた本を選び、そのつながりを自分の言葉で説明していた。

例1：「竹取物語」（かぐや姫は月へ戻る）→「太陽・地球・月」（月見団子）→「簡単レンジおやつ」（秋の味覚はサンマ）→「海の幸と日本人」（海の幸から海幸彦）→「古事記」（神話つながりでギリシア神話）→「蠍座」

例2：「竹取物語」（富士山の名の由来）→「都道府県名の由来」（静岡県出身の人物）→「オシムの言葉」（サッカー選手の長谷川健太）→「バランスご飯」（スポーツ選手の食事）→「天気図の見方」（稲作への影響）→「気象予報士になるには」

※ 「 」は書籍名、（ ）は関連する内容

本実践では、一つの作品から多くの作品へのつながりに気付くことで、読書活動に対する興味や関心を高めた。

(2) よりよい学校図書館を目指して～ 特別活動（生徒会活動）：図書局の活動～

① 先生による読み聞かせ

普段、自分では読まない本について知ってもらい、読書の幅を広げてもらうために、この活動を行った。読み聞かせする本は、担当の先生に選んでもらうことにした。生徒の興味・関心とは違う本を知り、様々なジャンルの本を知ることになるからである。読み聞かせをする先生は、校長先生や各学年の先生にお願いした。授業の時とは違う先生の一面を見ることにもなり、多くの生徒が、図書館に集まり、真剣な表情で聞き入っていた。



② ビンゴカード

多くの生徒に図書館に来てもらい、読書量を増やしてもらうために、ビンゴゲームを取り入れた。景品として、学校図書館司書のアドバイスを受け、手作りのしおりや缶バッジ、キーホルダー、ブックカバーを用意した。この活動では、一人あたりの貸し出し数が増えることになり、また、あまり利用していない生徒が図書館へ行くきっかけとなった。このように、生徒が主体的に取り組むことができたのは、学校図書館司書の指導や助言によるものが大きかった。



3 成果と課題

(1) 成果

これまで生徒は、図書館は「読書する場所」という意識が強かったようだが、授業での活用により「自分が知りたいことを調べる場所」でもあるとの意識も強まった。本校の学校図書館司書のアドバイスを受け、効率的な図書の検索を学ぶことができた。図書局活動では、紹介した実践のほか、小説から映画になった作品の上映や新しい本など図書館の情報を定期的に発信するなどの活動によって、より多くの図書館の利用者を増やすための活動は有効であった。

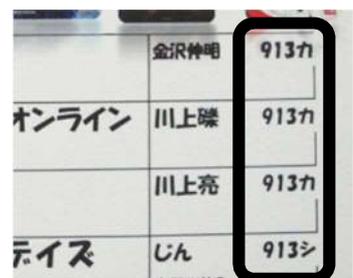


学校図書館司書から、図書の検索のアドバイスをもらう生徒

また、書籍の紹介では提示方法を工夫し、請求記号とともに展示をすることで、本を簡単に手に取ってもらうことができた。

(2) 課題

生徒は、請求記号を利用した検索はすぐにできないため、学校図書館司書など専門的な指導が重要である。また、図書館を授業で活用する教科に偏りがあるため、教員にも図書館活用のための研修などが必要である。



図書を探しやすい工夫をした本の紹介